

AWC日本連通信

日米のアジア支配に反対し、アジア民衆の連帯を推進する日本連絡会議

第21号 2023年 9月 30日

京都市南区東九条西山王町 7 きずな気付

H.P. <http://www.awcjapan.org>

e-mail : awcjapan21@yahoo.co.jp

11月

韓国労働者大会とAWC国際幹事会（CCB）参加訪韓団、 2023岩国行動を全国からの結集で成功させよう！

9月2～3日、沖縄・宮古から招請し、台北で開かれた連帯企画 記念写真(報告は2ページから)



韓国労働者大会&CCB 会議 参加のための訪韓団 募集中！

11月11日(土)

14:00 民主労総全国労働者大会への参加

12日(日) ~13日(月)

AWC 国際幹事会(CCB)会議
(各国報告・総括・方針・闘争現場訪問など)
会場:民主労総本部ビル 12階会議室
(ソウル地下鉄5号線「西大門駅」近く)

14日(火) 帰国

2023 岩国行動に集まろう！

日 時:11月18日(土)~11月19日(日)

場所:岩国市福祉会館小ホール

資料代:1日/通しともに 1000 円(労働者集会資料代別途)

.....

18日 15:00~ 岩国・労働者反戦交流集会

17:30~ 全国反基地交流会

19日 8:00~ 基地フィールドワーク(要事前申込)

9:30~ 岩国国際連帯集会

12:30~ (岩国市庁舎前広場 集合)

屋外集会&岩国基地正門へデモ

●オプションツアー参加者募集中！(19-20日)

呉コース:自衛隊基地フィールドワーク

上関コース:原発建設と中間貯蔵施設問題

AWC反戦夏季合宿の報告

(福岡・山口・京都・東京などをオンラインで結んで開催)

8月26日、北九州市生涯学習総合センターでAWC夏季合宿が開催された。



今回は、岩国米軍基地の強化や琉球弧への自衛隊ミサイル部隊配備と関連して、北部九州の軍備強化が進む現状を地元から報告していただいた。

まず、航空自衛隊築城基地について、築上町の元町議である宗晶子さんが報告された。

2006年「在日米軍再編に伴う米軍訓練の移転」を築城基地周辺の1市2町は受け入れており、2018年に米軍が使用する庁舎や弾薬庫を建設し滑走路を海側に延長して2700メートルにすることが発表された。近年は大規模な日米共同訓練が行われ、住民の負担が増している。2022年11月の日米共同統合演習では米軍190名が福岡県行橋市内に宿泊、2023年2月の日米豪共同訓練では、米兵が築城基地に新設された宿舎に宿泊している。宗さんは、基地の動きを注視し、基地に対する住民の不安や怒りの声をつぶさに拾い議会で発言してこられた。基地内視察の際、核兵器を上空で爆発させる「電磁パルス攻撃」に対応する地下室を発見し、住民を守るどころか、核兵器の使用まで想定した軍備が進むことに驚いたとのこと。このような動きに対して、住民は、2019年6月「築城基地の米軍基地化を許さない福岡県民集会」を開催。築上町ふるさと公園に1500人が集まった。11月には「築城基地の米軍基地化を許さない！京築住民会議」が発足し基地近隣3自治体、行橋市、

築上町、みやこ町の議会に「築城基地の『拡張反対』」の意思を表明することを求める請願」を提出した。しかし、すべての議会で否決された。さらに、築上町長は、2022年12月に「2023年度末までに基地内の施設の米軍への限定使用手続きが完了する」と文書を提出している。

次に、オスプレイ配備を目指す佐賀空港拡張工事について歴史的経過を含めた詳しい報告が行われた。現在、地権者4名が工事の差し止めを求めて裁判所に提訴している。

最後は市民への周知も不十分なまま進められている大分県の敷戸ミサイル弾薬庫建設の動きである。「大分敷戸ミサイル弾薬庫問題を考える市民の会」が発足し反対の声が上がっている。当日参加した仲間からの報告だった。

3人の方からの報告を受け、名古屋学院大学の飯島滋明さんがまとめてくださった。

中国が敵国と想定され、南西諸島に配備されるミサイルの射程は北京をめざすが、日米同盟で前線に立つのは自衛隊であり、単独で数か月間戦闘できるように全国各地で基地防衛の軍備が進む。市民の防衛は自衛隊の役目ではないとのこと。自分たちを守る道は、軍備強化に反対していくことしかないのである。

(中村：AWC九州山口会員)

台湾で「台湾有事」反対の講演会が開かれる

～宮古島の清水早子さんと沖縄島の具志堅隆松さんが講演～



九月一日、白色テロ弾劾講演会に招かれた故白松哲夫代表の付き添いで行って以来、十数年ぶりに台湾を訪れた。桃園空港は日本と同様、えらく暑かった。車に乗り、新竹工業団地へ向かう。労働党事務所を訪問し歓談した。資料をいただいた。夜、宮古島の清水早子さん及びお知り合い二人と合流。

二日。台湾師範大学の大会議室へ移動。以前AWC幹事会を開いた場所だ。懐かしい。午前九時、台湾労働人権協会と台湾労働党国際部の主催で、「台湾独立反対、介入反対連合行動」の共催による「从琉球反美军基地运动看台湾反介入联合行动（琉球反米軍基地運動から見た台湾への[海外勢力の]介入に反対する連帯運動）」が始まった。主催者と共催者のあいさつ、来賓紹介に続き、現場で求められたのでAWC日本連として連帯発言。通訳はやはり幹事会と講演会の時にお世話になった大学教授がして下さった。台湾の進歩勢力の現状についてもいろいろ伺ったが割愛する。



続いて、清水さんの講演。宮古島での反基地運動の歴史と現状、自衛隊基地の現況とそれによる被害、日本軍性奴隷制被害者の碑や、明治政府が台湾出兵の口実とした牡丹社事件（台湾先住民族による宮古島漂流民殺害）に関する和解の碑など国際連帯の取り組みなどに触れ、「琉球の島々を非武装緩衝地帯にしましょう」と結んだ。



お昼休みに沖縄島の具志堅隆松さん（写真上）が会場に到着。遺骨収集の取り組みがビデオと写真で説明され、遺骨の混じる土砂を辺野古新基地建設に利用しようとする日本政府に対して、それを阻止するための取り組みが具体的に語られ、「戦争は絶対に起こしてはならない。沖縄を非武装緩衝地帯にしましょう。台湾もぜひ一緒になってください」と、意図せずに清水さんと同じ結論で講演を締めくくった。それぞれ2時間ずつ講演して約1時間ずつの質疑応答だったが、朝から夜までの長時間の講演にもかかわらず、席は常時ほぼ埋まっている状態。聞くと、延べ180人が参加したという。マスコミも新聞社とテレビ局が取材し、台湾三大新聞のうちの一紙の二面に記事が載った。大きな反応だそうだ。

三日。台北市から南下し、角板山（ジャオパンサン）へ。日帝植民地の時期に、火薬など様々な物の原料となる樟腦の採れる楠を大量伐採するために台湾総督府が先住民族を武装排除しようとし、それに対する抗日闘争が起きた場所だ。山奥深くにひっそりとたたずむ寺から読経の声が聞こえ、その隣に廟があった。その闘いで亡くなった先住民の霊が祀られている。そうした話を聞きつつ、線香を上げ、頭を下げた。

「台湾有事」論とそれに基づく戦争の動き

を阻む琉球諸島と台湾との連帯の一步が踏み出されたと思う。素晴らしい講演をされた清水さんと具志堅さん、台湾労働党・台湾人権協会の仲間たちの努力に拍手を送ります。

．．．

余談。政権与党の民主進歩党が、名前と真逆の極右政党化していることも知った。①日帝植民地時期を美化し、当時の神社を各地で復元し、そのうち桃園神社では北海道の神社で祀っているアマテラスなど三つの神を分祀した（が抗議行動で返された）、②歴史教科書の記述を植民地近代化論、すなわち日帝植民地美化論に塗り替えた、③民進党員の高雄市長が安倍晋三の銅像をその銃殺から2ヶ月後の昨年9月に建て、妻の昭恵を招いて除幕式を行った、④政府に批判な放送局である中天テレビ（講演会を取材）の放送権を剥奪した。そのため同テレビ局はネット放送局に丸ごと移行して放送を続けている。⑤学界では大陸と台湾との統一論を口にできない、⑥統一論に関する書籍はほぼ出版できない。⑦国民党員として1988-2000に中華民国総統を務めて実利外交と民主化を進めたが、退任後は独立論と反共を鮮明化し、安倍晋三など日本の右翼と交流し指導した李登輝は、民進党にとって「父」的存在だ…。

台湾の政治状況は一言で言って、日本第一党が執権したような状況だ。台湾の仲間によれば「ファシズム前夜」。私は己の認識の重大な誤りを悟り、頭を抱えた。韓国と同様、マスコミの台湾特派員はおしなべて反共主義者として偏向報道を垂れ流し続け、自分もその罠にはまっていた。現場での状況把握の大切さを改めて確認した。

民進党は反共政党であり、反中国共産党の立場から同党のすべてを否定し、台湾独立論を強硬に主張している。台湾の民主化運動と韓国のそれは、独立か統一か、反共かそうでないか、親米か反米かなど根本的に質の異なる運動であり、一つに括ることは決してできない。

中国の経済的台頭（GDPが米国の7割）を

危惧してそれを押さえつけて世界のナンバーワンであり続けようとする米政府は民進党と独立論を戦略的に支援し擁護している。2027年までに中国が台湾を軍事的に攻撃して武力統一を成し遂げるとする台湾有事論は無根拠のデマであり帝国主義者の作り上げた物語だが、その発端となった数年前の米軍指導部による議会での証言は民進党政権の議会ロビー活動が生み出した成果なのではないか、という疑問が浮かんだ。

余談の余談。九月中旬に台湾を再訪問し、ヒノキ伐採のために先住民族を武力でたたき出して作った製材集積所跡、神風特攻隊戦闘機格納庫跡、また台北市内の台湾総督府など植民地支配時代の史跡を訪ね歩いた。台湾と朝鮮への植民地支配及び「満洲国」建設とアジア侵略戦争を一体的にとらえる必要性、特に先行事例として大きな影響力を持った台湾植民地支配を研究することが日本帝国主義の侵略戦争と植民地支配を根本から批判するうえで必須の作業であることを胸に突き付けられた、個人的にもとても意義深い旅となった。年1回の台湾歴史探訪の旅の実現に努めたい。

最後の余談。台湾総統の蔡英文と私は下の名前が共通しているが、講演会の締めくくりでマイクを握った退役軍人（退役軍人の多くが民族主義の観点から日米の台湾問題への武力介入に反対し、平和統一を求めており、この共通点で労働党・労働人権協会と連携している）が、「同じ英文（インウェン）でも言っていることが全然違うのう」と言って参加者からどっと笑いが起きた。

（迫田・全国事務局員）

●今回の台湾訪問と講演会は、5月 G7 広島サミット反対現地デモで、ともに闘い交流したことがきっかけとなって実現したものです。AWC も参加した G7 広島サミット反対現地デモ実行委員会は、賛同金の一部をお二人の講演者の台湾訪問にカンパしました。改めて全国からの賛同に感謝します。

汚染水海洋放出に反対する 1600 キロ徒歩行進を闘った 韓国の李元栄さんのアピールを紹介します。

ソウル～釜山 500 キロ、下関～東京 1100 キロの合計 1600 キロを徒歩行進して9月11日に東京の新橋駅に到着した李元栄さん（元スウォン大教授）は 200 名を超える人々の歓迎を受けて、行進の中で集めた日韓市民の切実な声を日本の国会および政府に伝えました。その場には、全国から駆け付けた人々とともに、韓国から李元栄さんの仲間の皆さんや韓国サンケン労組なども参加されていました。

こんにちは、ソウルから歩いてきた李元栄（イ・ウォニョン）と申します。

私が歩いてくる間、行進を見ていた多くの市民が呼応してくれました。車の中からも、こちらに手を振ってくれます。

たとえば、ある町では、野球をして遊んでいた小学生たちが、韓国から来た旅人が歩いていく理由に気づきました。

子どもたちは本能的に何が真実かを知っています。

子どもたちと別れてしばらく歩いていると、子どもたちの一人が自転車に乗って追いかけてきて、水を一本私にくれました。私は感動しました。

この行進は子供たちも応援する行進です。

いつからか国際社会が壊れてしまいました。今、地球村をリードしなければならない諸大国が本来の役割を全く果たせずにいます。

人類は国連を作りましたが、まだまだです。原子力振興機構である IAEA がいつから主導権を握ったのですか？ IAEA は利益集団に過ぎません。IAEA もアメリカや国連も傍観しています。彼らに地球を任せておくことはできません。

これからは、地球村の主人公が立ち上がって正さなければなりません。民衆が行動に出なくてはなりません。今回の日韓市民の徒歩行進はその歩みの一つです。

京都は日本の良心の砦です。私は京都市民に大きく期待をしています。国際的な民衆の連帯が本格的に進展する過程で、京都が重要な拠点になるということです。

今は行動でその道を示すべき時です。行動によって志を集めて、日本政府を挫折させなければなりません。

先ほど IAEA の話が出ましたが、私が去年ヨーロッパを歩いた時に、ウイーンに行きました。ウイーンの一部に IAEA の本部があります。その建物の前を通り過ぎる時、私は決心しました。国際原子力推進機構に過ぎない IAEA を、真の原子力解体機構に作りかえねばならないと決心したのでした。

そう思いながら叫んだスローガンを叫びます。

一緒に叫んでください。

汚染水流すな！ 汚染水捨てるな！

ありがとうございます。



日韓徒歩行進を呼びかける李元栄さん

この文章は、8月13日京都での汚染水放出反対のデモで演説された内容を起こしたものです。

AWC も、原発と核兵器の廃絶のために、韓国と日本で、連続して同時行動を行いました。



6月26日(月)
ソウルと東京で
汚染水放出反対
の日韓同時行動

上は、6月26日、ソウル市龍山大統領室前で開かれた「汚染水海洋投棄決死阻止！日韓共同闘争宣布式」

左は、同日、東京の経産省前で、来日中の韓国ライダーユニオン労働者や経産省前テント広場の皆さんも参加して抗議行動を行いました。



73年目の8・6広島
日韓共同行動
右:ソウル日本大使館前
街頭記者会見(8月4日)
下:原爆ドーム前の
広島青空式典(8月6日)



8月4日(金)午前、韓国ソウル市の日本大使館前での「生命か核災害か、核兵器と原発を廃棄しよう！」韓日連続行動。声明を読み上げているのは、「ヨンドク核発電所反対郡民連帯」のパク・ヘリョンさん、AWC 韓国委代表ホ・ヨングさんほか参加者の皆さん。

今こそ本格的な脱核運動に取り組むべき時 — 福島放射能汚染水の海洋投棄を中断させる闘いを宣言しつつ —

2023年8月24日午後、日本政府と東京電力は福島第一原発の放射能汚染水〔訳注：原文は「核汚染水」〕を太平洋に投棄し始めた。全世界に対する戦争宣言であり、核＝原子力の災害を加重させる蛮行だ。これまで日本政府は、核＝原子力の振興機構である国際原子力機関（IAEA）を前面に押し立てて福島放射能汚染水の海洋投棄を準備してきた。

日本と最も近い韓国は、尹錫悦政権の発足とともに植民地支配に対する日本のきちんとした謝罪と反省のないまま、米国の主導下で日韓関係の正常化を推進し、放射能汚染水の海洋投棄について黙認してきた。こうした状況のため、日本の海産物輸入1位である中国の強い反対にもかかわらず、海洋投棄を強行するのがはるかに容易になった。

欧州におけるロシア・ウクライナ戦争、および、欧米対ロシア、北東アジア地域の日米韓三角軍事同盟の推進による「日米韓台湾」対「朝中露」の対峙が新冷戦体制を強めている。日本政府はこうした機会を利用して、米国とIAEAの威を借り、韓国尹錫悦政権が福島放射能汚染水の海洋投棄に反対しないようにした。

今年の上半期に限れば、福島放射能汚染水の海洋投棄について韓国人の80%が反対したが、日本人は60%が賛成した。しかし、海洋投棄が迫る中、共同通信の世論調査では賛成が30%に減る結果になった。福島を中心に生存権を守るための日本の漁民の反対はより積極的だ。

今年8月21日、日本では多核種除去設備（ALPS）処理汚染水の海洋投棄を禁止する訴訟弁護団（広田次男・河合弘之・海渡雄一各弁護士など）を結成して原告を募集している。9月8日、福島地裁に1次提訴し、2次提訴は10月末までに準備する予定だ。韓国など外国人の場合、訴訟を支援する会に加入できる。

弁護団は「過去に放射性廃棄物を故意に海に放出した事例はない。仮に希釈しても放射性物質の総量は変わらない。処理水にはトリチウムだけでなくセシウム134、137、ストロンチウム90、ヨウ素129、炭素14などが含まれている。健康への影響はどこでも評価されておらず、安全性が確認されていない。福島第一原発の敷地内や敷地近くに7-8号機の建設予定地などタンクを建てる場所が多く、また、汚染水をモルタルで固体化するなどの有効な代案が提案されたが、きちんと検討されなかった。デブリを取り出すのは30年後のことであり、『福島復興に向けた海洋放出』という主張はごまかした。今すぐタンクを撤去する必要はない。そして放射性廃棄物の海洋投棄はロンドン条約96年議定書によって全面的に禁止されている」と主張した。

また、弁護団の主張によれば、福島放射能汚染水は直ちに海洋投棄するのではなく、陸上でタンクに保管しなければならず、また、保管することができる。福島第一原発近くの汚染地域には住民が住んでいない。したがって、タンクを貯蔵する敷地は十分だ。経済大国の日本がこれに耐えられないわけでもない。日本政府と東電の主張通りに放射性物質を海に捨てたとしても、決して希釈されない〔訳注：投棄される放射性物質の総量に変わりはないことを指すものと思われる〕

ことが明らか以上、[放射能汚染水の海洋投棄は] 全世界に向けたテロ行為だ。

米国とロシアが日本の放射能汚染水の海洋投棄に反対しないのは、両国が世界最大の核兵器保有国（米国とロシアが全世界の保有量の87%を占める）であると同時に、原子力発電所保有国（米国1位、ロシア5位（旧ソ連2位））だからだ。1946年に米国は太平洋ビキニ島を皮切りに多くの島で原子爆弾実験を行った。ソ連（ロシア）は1966~1993年に日本海にセシウム・ストロンチウム・トリチウムが含まれる使用済み核廃棄物など液体・固体の核廃棄物すなわち老朽原子炉そのものを海に捨てた。

米国とロシアのみならず原発を保有している国々は、原子力発電の過程で温排水はもとより、事故や故障によって発生する放射性物質の漏出については知らぬふりをして行かうか、または基準値以下だと強弁する。核兵器を保有している国々は絶え間ない核実験で放射性物質を漏らしている。その他にも原子力潜水艦・原子力艦船の運用で海が汚されている。たとえ核兵器が使用されないとしても、戦争の過程でミサイル攻撃により原発が破壊される場合、深刻な放射性物質の災害を招きかねない。今起きているロシア・ウクライナ戦争の渦中にも原発攻撃の危険が依然として残っている。

今こそ、核＝原子力の危険から地球と人類を守り抜く脱核運動を積極的に繰り広げていく絶好の機会だ。福島放射能汚染水の海洋投棄に反対して阻止することにとどまらず、核兵器と原発を廃棄する闘いに全面的に取り組むべきだ。原発爆発事故は、1979年米国スリーマイル、1986年ソ連（現ウクライナ）チェルノブイリ、2011年日本の福島で終わらないだろう。「科学」の名で「安全」を語るが、地球上で最も科学技術が発展した国で原発事故が発生した。放射能汚染水の海洋投棄を阻むことが当面の課題ではあるが、根本的な原因を取り除くためには、核兵器を廃棄し原発を閉鎖しなければならない。

日本政府は、米国とIAEAの庇護の下（尹錫悦政権は付き添い）で福島放射能汚染水を海洋に投棄した。そして、老朽原発の再稼働と原発の新規建設を継続して試みるだろう。同時に、プルトニウムの抽出を通じて核兵器の生産と保有も狙うはずだ。日本で9月から始まる多核種除去設備（ALPS）処理汚染水の海洋投棄を禁止するための訴訟を今すぐに支持・支援し、これに連帯すべきだ。

帝国主義と核マフィア [=原子力村] 勢力は、自分たちの覇権と利益のために核兵器を生産し続け、原子力発電を続けていこう。しかし、核＝原子力の振興と競争は人類に災いをもたらす。労働者民衆は脱核運動により一層積極的に取り組もう！ 同時に、一国内で展開される個別分断された闘いではなく、国際的連帯を模索していこう！

2023年8月24日

AWC(帝国主義の侵略と支配に反対するアジア共同行動)韓国委員会)

アジア共同行動(AWC)日本連の会員になってください。アジア共同行動(AWC)は、1992年自衛隊の初の海外派兵に抗してアジア各地の民衆団体の参加で開催した「日米軍事同盟と自衛隊の海外派兵に反対する国際会議」で発足しました。アジア規模で反戦平和・国際連帯を推進する民衆団体のネットワークです。

◆年会費(一口): 個人1000円・団体3000円

◆郵便振替口座 00180-0-722944

◆口座名 「アジアキャンペーン委員会」

◆各地の AWC でも一緒に活動して下さる方を求めています。